

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：33918

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K18595

研究課題名（和文）シングルマザーの生活戦略と子ども世代の生活状況・家族形成意識に関する質的研究

研究課題名（英文）Qualitative research on single mother's daily strategies and children's lives

研究代表者

末盛 慶（Suemori, Kei）

日本福祉大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：70387744

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は主に3点ある。1つめはシングルマザーの仕事生活と家族生活の生活戦略に関する知見である。具体的には、約半分の事例で転職するなどシングルマザーは仕事生活に関する生活戦略を高い頻度で実行していたこと、正規に転職しても収入が上昇しないという意図せざる結果も生じていることが明らかにされた。

2つめは、シングルマザーの子どもの進路に関する知見である。子どもの進路選択については「子に任せている」世帯が多いことが明らかにされた。

3つめは、シングルマザーの子どもと親の親子関係に関する知見である。ひとり親世帯ではお互いにお互いのことを踏み込まないことで関係を維持する場合もあることが明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は近年貧困を中心に語られがちなシングルマザーの具体的な生活状況を仕事生活と家族生活の生活戦略という視点を用い、かつ縦断的調査を用いて明らかにできたことである。

社会的意義は、シングルマザーの生活状況を縦断的調査を用いて明らかにできたことにより、今後の支援実践や政策を考える際の基礎資料を提供できた点である。

研究成果の概要（英文）：There are three main findings of this study: first, the findings regarding single mothers' life strategies for work life and family life. Specifically, it was found that single mothers implemented life strategies related to work life with high frequency, such as changing jobs in about half of the cases, and that there were unintended consequences of not increasing income after changing jobs to regular employment. The second finding concerns the career paths of single mothers' children. It was revealed that many households "leave the specific career choices of their children to their children." The third finding is related to the parent-child relationship between children of single mothers and their parents. It was revealed that single-parent households may maintain their relationship by not stepping in each other's affairs.

研究分野：家族社会学

キーワード：生活戦略 シングルマザー 子ども 仕事生活 家族生活

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、子どもがいる世帯の中でひとり親世帯の割合が上昇している。中でも母子世帯はひとり親世帯の85%を占めている。今後も母子世帯の増加が予想されている。

母子世帯に関しては貧困率の高さが注目されているが、シングルマザーの生活実態はいくつかのモノグラフを除いて研究上十分に明らかにされていない。特に、シングルマザーは家族生活と仕事生活の両立に困難を抱えやすいが、この点に関する研究はほとんど行われていない。

2. 研究の目的

そこで本研究は、シングルマザー自身がどのような生活戦略(主に職業生活と家族生活の戦略)を採っているのか、生活戦略のプロセスはどのようなものなのか、そして親が採る生活戦略とそのプロセスは子ども世代の生活状況、進学、就労および家族形成にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的とする。

なお生活戦略とは、置かれた状況の中で個人がとる諸行為のことを指す。生活戦略は社会構造に規定されながらも、一定の個人の選択性を備えた行為概念である(末盛 2017)。理論的には近年の社会学における社会的行為理論に基づいている。

生活戦略概念を用いることにより、シングルマザーの日々の生活に対する対応はどのような社会的要因によって影響を受けており、その社会的な影響下の中でとった対応がどのような帰結をシングルマザー本人および子どもたちに与えることになるのか、その一端を明らかにすることができる。

3. 研究の方法

本課題の研究目的を達成するために、プロセスと変化をとらえるための縦断的インタビューを実施した。かつ、子どもへの影響を検討するために母子カップルデータを収集した。3年間の縦断的インタビューで、母子のカップルデータを収集することにより、シングルマザーの生活戦略の様相を描き出すだけでなく、母親の生活戦略が子どもの将来展望にどのように影響するのかを、貧困の再生産の観点から検討を行った。

具体的には、3年間の間に2回~3回の縦断的インタビュー調査を中高生の母親とその子どもに実施することができた。インタビューでは、母親に対して、背景要因(学歴、就業状態、親族関係、青年期の生活など)、日頃の生活戦略(職業生活上の戦略と家族生活上の戦略を中心に聞く)とそのプロセスを中心に、子どもに対しては、母親の家庭の様子、現在の進学・就職の希望や家族形成について、それぞれ聞き取りを行った。加えて、双方に関係性の現状や変化(母子の連携形成)についても質問を行った。

4. 研究成果

本研究の成果は主に4点ある。1つめはシングルマザーの仕事生活と家族生活の生活戦略に関する知見である。シングルマザーは全体の約半分の事例で転職するなど仕事生活に関する生活戦略を高い頻度で実行していたことが明らかにされた。今回の縦断的インタビュー調査はあくまで数年間のインターバルであったが、シングルマザーは多くの転職行動を行っていた。また転職を行っていない者の中でも子どもや親に転職について相談する等、転職を模索している行動が見られた。以上から、シングルマザーは所得向上に向けて多くの仕事上の生活戦略を展開していることが示された。特に明確な転職を行わずとも、転職について検討や交渉をシングルマザーが随時行っているという知見が重要と思われる。

2つめは、正規に転職しても収入が上昇しないという意図せざる結果も生じていることが明らかにされたことである。母子世帯の貧困率の低下のために、シングルマザーの正規雇用への転職が政策的に推奨されているが、個々のケースによっては正規雇用に転職しても残業代が出ないあるいは副職の禁止などがあり、必ずしも所得の上昇につながらない場合もあることが示唆された。

3つめは、シングルマザーの子どもの進路に関する知見である。子どもの進路選択については「子に任せている」世帯が多いことが明らかにされた。このように子どもに任せる、あるいは日々の忙しさから、子どもに任せる他ないシングルマザーのもとで暮らす子どもたちは進路選択において不利が生じる可能性があることが示唆された。

4つめは、シングルマザーの子どもと親の親子関係に関する知見である。ひとり親世帯ではお互いにお互いのことを踏み込まないことで関係を維持する場合もあることが明らかにされた。

以上の知見の意義についてふれておく。大きく学術的意義と社会的意義にわけて記す。

学術的意義に関しては、近年貧困を中心に語られがちなシングルマザーの具体的な生活状況を仕事生活と家族生活の生活戦略という視点を用い、かつ縦断的調査を用いて明らかにできたことである。母子世帯の相対的貧困率がなかなか低下しない背景には、子育てや家事などのケア役割を担っていることが主な要因になっている。シングルマザーのケア役割と仕事の関係性について研究上注目すべきであることを生活戦略概念の提示も含めて示せたことが学術上の意義だと思われる。

社会的意義は、縦断的なインタビューを用いてシングルマザーの生活状況を明らかにできたことにより、今後の支援実践や政策を考える際の基礎資料を提供できた点である。本研究で、仕事生活と家族生活の両立やその困難がよりリアルなかたちで把握できたことにより、母子世帯の相対的貧困率を低下させるにはどのような社会政策が求められるのかの示唆が得られたと思われる。この点について付記するならば、現在行われているようなひとり親の就労支援のみでは大幅な所得の向上は難しく、児童扶養手当などの社会保障政策で対応することが望ましいと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 末盛 慶・小平英志・鈴木佳代	4. 巻 148
2. 論文標題 シングルマザーの家族生活と仕事生活に関する生活戦略 計量的分析による検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本福祉大学社会福祉論集	6. 最初と最後の頁 1 - 18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 末盛 慶 小平英志 鈴木佳代
2. 発表標題 母子世帯の貧困はなぜ維持されるのか？ 就労をめぐる生活戦略とその帰結に関する質的分析
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 末盛 慶
2. 発表標題 シングルマザーの家族生活と仕事生活の調整に関する生活戦略 - インタビューデータを用いた質的分析
3. 学会等名 日本家族社会学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小平 英志 (Kodaira Hideshi) (00442228)	日本福祉大学・子ども発達学部・教授 (33918)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	鈴木 佳代 (Suzuki Kayo) (90624346)	愛知学院大学・総合政策学部・准教授 (33902)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関